

千代木工（加古川市八幡町宗佐）は木枠ミラーでばっちり！

2020.11.29 (第3種郵便物認可)

「巣ごもり需要」で個人向け伸びる 鏡売り上げ増

コロナ禍でも売り上げを伸ばしている木工所が、加古川市八幡町宗佐にある。木枠ミラー専門メーカー「千代木工」。

企業向けの鏡の受注は激減したが、外出自粛を受けて、ヨガなど自宅で運動に励む「巣ごもり需要」が追い風になった。個人向けが大きく伸び、来年3月末の決算では年間売り上げで過去最高を見込む。この勢いに弾みを付けようと、高級木材「吉野杉」を使った製品も作り始めた。（笠原次郎）

木枠ミラー専門「千代木工」

同社の鏡は約500種類に、製造を開始。木枠には従来上る。相手をアランドの生産が6割を超すが、残りは鏡を1枚から受注生産し、最短で3日後に発送する。新型コロナウィルスの感染が拡大した4月以降、全身鏡（約1万5千円）を中心に販売が大きく伸びたという。

社長の岡本清明さん（64）は「企業からの注文が一時はゼロになった。個人のお客さんが増えたおかげで救われた」と振り返る。

11月から吉野杉を使った鏡



吉野杉を使った鏡を手にする岡本清明社長「千代木工」

吉野杉使い日本らしさも

役、佐起子さん（59）は「コロナ以降、グローバルではなくローカルが見直された。足を元を見つめ直し、日本らしさを追求したかった」と新製品に挑戦した理由を話す。

吉野杉の鏡作りでも、培ってきた製法が生きた。木枠は、鏡面とほぼ平らに張り付けており、ほとんど映り込まない。卵形に削って丸みを付け、立体的に仕上げている。白い木枠は和室にもなじむデザインになり、佐起子さんは「コロナによって新たな木材にチャレンジし、日本の良さを再発見できた」と話す。

正方形や長方形など6種類あり、全身鏡（高さ161cm、幅59cm）は6万6千円。千代木工 ☎079・441・9600

ホームページ <https://www.sendaimokkou.com/>

